

# 西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ セツナンダイガク	フリガナ ケイザイガクブ	フリガナ ウエスギゼミ
摂南大学	経済学部	植杉ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ チームダイセンセイ	フリガナ オトナギ チヒロ	4人	無
team 大先生	音なぎ 治寛		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

## 研究テーマ（発表タイトル）

誰もが参加できる新しい復興支援の形「出張屋台村」

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

東日本大震災から6年がたった今、震災の記憶が風化しているように感じる。現に日に日に震災関連の報道も減っている。しかし、現地の復興状況はまだ不十分であり、震災の記憶も風化させてよいものではない。私たちはこれまで、宮城県気仙沼市をフィールドに震災復興の研究を行ってきたが、私たちの住む関西圏において、誰もが参加しやすく、震災から学ぶことを目的とした新たな復興支援の形態を提案することを目的とする。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

私達の研究テーマである復興支援には、比較的軽易な形態である募金から現地へボランティアに訪れるなど様々な形態がある。震災当時には多くの人々が現地へボランティアに赴き、募金は長期的で誰もが参加しやすい復興支援の形として現在も行われている。しかしその他の復興支援の形態として、震災復興イベントの実施や被災地域の物産の積極的な購入などが考えられる。これまでも単発的に実施はされつつも、それらの参加・購入行動が震災復興に間接的にも貢献するという認識は少ない。

### 3. 研究テーマの課題

長い年月が経ち、震災の記憶は風化している。それに比例するかのよう現地のボランティアも減少し、街頭での募金なども見ることがなくなった。今ある復興支援は、一時的には大きな効果をもたらすが、時間とともにその効果は薄れていく。さらに震災の復

興という目的だけに絞られる。被災地が真の意味での復興を成し遂げるには、震災の記憶の承継を地域の観光 PR を行える新しい復興支援の形態が必要である。

また、気仙沼の基幹産業である水産加工品の流通先は、主に宮城県内や関東圏が多く、これまで実施してきた聞き取り調査においても、関西圏での流通は非常に少なく、経済的な復興支援を考えると関西圏をはじめとした販路拡大は急務であるといえる。

#### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

そこで私たちは新しい復興支援の形態として「出張屋台村」を提案する。この「出張屋台村」の目的は「復興支援」、「震災の記憶の風化の阻止」、「観光 PR」を目的にしている。

このイベント形態の特徴は企画の中心に「食」を置いており、暗いイメージを持たれやすい復興支援を参加しやすいものになっている。さらにこのイベントで復興支援だけでなく地域の特産品を紹介することで被災地の経済的な復興の後押しができる。関西圏への新たな販路拡大の可能性を広げ、地域の基幹産業も被災前の状態に戻すことを目標にしている復興支援の形態、それが「出張屋台村」である。

#### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちは、現地の復興状況を知ることとイベントを実施するための協力を仰ぐことを目的に今年の8月28日から三日間、気仙沼市に訪問した。

現地では、復興や観光PRに携わっている人たちの意見を伺った、気仙沼市役所、気仙沼市商工会議所にて「出張屋台村」を提案し、意見やアドバイスを頂いた。そこで「産業も元の状態に戻ってようやく復興だと考えている」という言葉から、産業の復活という点も復興支援には重要なことだと理解した。さらに、現地のフィールドワークを行い、気仙沼市の現状や魅力を自分たちの目で確認することができた。

その後気仙沼市商工会議所の取りつきで、神戸南京町で気仙沼市の特産品であるメカジキの解体ショーが行われるイベントの中秋節を紹介された。そこでイベントの有効性を確認するためにアンケート調査を行った。アンケートは実際に震災の記憶の風化が生じているのかとイベントの中心に食を置くことが有効であるという2つの仮説をもとに作成した。アンケートの結果は、クロス集計やクラメールの独立係数などを利用し分析した。その結果上記2つの仮説が立証された。

#### 6. 結果や今後の取り組み

現在神戸市南京町で「出張屋台村 in 南京町」として実施することを目標に活動している。そのために復興支援の形態や現状を研究し、気仙沼市だけでなくほかの被災地の風化を防ぎ、産業もより発展させることを図る。

#### 7. 参考文献

- ・管 民郎, 『アンケートデータの分析』, 現代数学社, 1998年.
- ・気仙沼市, 『<http://www.kesenuma.miyagi.jp/>』, (参照 2017.6.13) .
- ・復興屋台村 “気仙沼横丁” を存続させたい。「絆」をつなぐプロジェクト  
『<https://camp-fire.jp/projects/view/24095>』, (参照 2017.6.20) .
- ・気仙沼商工会議所, 『<http://www.kesenuma.or.jp/>』, (参照 2017.6.20) .
- ・しごと場あそび場ちよいのぞき気仙沼, 『<http://cyoinozoki.jp/>』, (参照 2017.7.6) .
- ・熱烈歓迎!南京町, 『<http://www.nankinmachi.or.jp/>』, (参照 2017.9.25) .
- ・神戸開港 150 年記念事業, 『<http://www.kobeport150.jp/>』, (参照 2017.9.25) .

#### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさ

せていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

---

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑